

II. 次の文章を読み、【設問1】～【設問7】のそれぞれの指示に従って答えを記せ。また空欄（ a ）～（ h ）に当てはまる最も適切な語句を下記の「語群」の中から選び、その番号を記入せよ。なお、同一記号の空欄には同一語句が入る。

禅宗は、わが国中世の文化に大きな影響を与えた。早くは斉明天皇7年(661)に唐より帰国した元興寺の道昭によって伝えられたといい、平安時代初期には嵯峨天皇の皇后の招請で、中国僧の義空が来朝したこともあったが、禅が定着するのは鎌倉時代をまたねばならない。

まず栄西は、文治3年(1187)に二度目の入宋をした際に、臨済宗の禅を学び、わが国にもたらした。その後、延暦寺が禅の停止を朝廷に訴えて活動が禁じられたが、それに対して、⁽⁷⁾栄西は禅宗の正統性を主張した著作を撰した。また彼は、鎌倉におもむき、頼朝の忌日法要や密教祈禱の導師を勤めるなどして幕府の帰依を受け、(a)を建立し、京都には(b)を建立した。

栄西に次いで、道元は貞応2年(1223)に入宋し、諸山を訪ね天童山の如浄のもとで身心脱落という境地をえた。嘉禄3年(1227)に帰国して、曹洞宗の禅を伝え、(b)で坐禅の心得と作法を説いた『普勸坐禅儀』を著した。その後、⁽¹⁾23年間の説示を集め、この宗の根本聖典とされる著作が成立する。道元は、京都での教化活動を断念して寛元元年(1243)越前に移住し、しばらくしてここに大仏寺を開き、のちに(c)と改称した。

栄西による臨済宗伝来以後、嘉禎元年(1235)に入宋した円爾は、無準師範に学び、帰国後は博多に承天寺などを開き、寛元元年(1243)には九条道家によって造営中の(d)の開山として招かれた。後深草・龜山上皇、さらに北条時頼の帰依を受け、禅宗の整備に努め、後に聖一国師と勅諡された。

中国禅僧の来日も注目される。(ウ)は、天童山で入宋していた律僧の月翁智鏡と知り合い、日本での教化を志し寛元4年(1246)に来日した。北条時頼は、(e)を開創し、中国のような禅寺にするために彼を開山に迎えた。兀庵普寧は、円爾によって日本に招聘された。文応元年(1260)に博多に至り、北条時頼は(e)の二世としたが、時頼の死後帰国した。(エ)は、弘安2年(1279)北条時宗の招きによって来日し、(e)に住持し、北条氏一門をはじめとする鎌倉武士の教化に努めた。時宗は円覚寺を開創し、また(エ)を開山に迎えた。一山一寧は、正安元年(1299)に来日するも一時期、間諜との疑いを受け伊豆に幽閉された。しかし後には、北条貞時や後宇多上皇の帰依を受け、(e)住持に迎えられ、広く仏教、文学、朱子学、書道などに精通していたので、五山文学の素地

をつくった。

禅寺が数多く建立されるようになると、南宋の官寺の制にならった五山の制度が形づくられるようになる。五山は鎌倉時代末期からみえるが、寺数とその序列は変動しながら、元中3年(1386)に五山・(f)としてほぼ完成した。

鎌倉では(e)・円覚寺・(a)・浄智寺・浄妙寺

京都では天竜寺・相国寺・(b)・(d)・万寿寺

の各五カ寺が五山で、この鎌倉・京都の十カ寺の上に南禅寺がおかれた。そしてこれらに次ぐ寺格の寺院が(f)である。

五山派の勢力を確立する基礎を築いたのが(g)である。彼は、後醍醐天皇や足利尊氏の帰依を受け、戦没者追悼のために国ごとに安国寺・利生塔を設け、また後醍醐天皇追悼のため天竜寺を建立した。五山の禅僧には、中国からの渡来僧や中国帰りの留学僧が多く、⁽⁴⁾禅の精神を具体化した水墨画や建築・庭園様式などを広く伝えた。彼らのあいだでは、宋学の研究や漢詩文の創作も盛んであり、義満のころに五山文学の双璧と称された、詩文集『蕉堅藁』を著した絶海中津と、『空華集』を著した(h)らが出て最盛期を迎えた。

五山派は、その保護者である幕府の衰退とともに衰えた。これに対し、より自由な活動を求めて地方布教をこころざした⁽⁵⁾禅宗諸派(林下)は、地方武士・民衆の支持を受けて各地に広がった。

時代は降るが、江戸時代初期の⁽⁶⁾承応3年(1654)には、明の禅僧が来朝し、後に宇治に中国様式の万福寺を開いた。また曹洞宗の鈴木正三、臨済宗の盤珪永琢ら、江戸中期には白隠慧鶴らが現れて今日の禅宗の基礎を築いた。

【設問1】文中の下線部(ア)に関して、栄西の著したこの書の名称を漢字で記せ。

【設問2】文中の下線部(イ)に関して、この道元の主著の名称を漢字で記せ。

【設問3】空欄(ウ)に入る禅僧の名を漢字4文字で記せ。

【設問4】空欄(エ)に入る禅僧の名を漢字4文字で記せ。

【設問5】文中の下線部(オ)に関して、五山僧の如拙・周文とともに水墨画の基礎を築いたとされ、長く殿司の役におり、代表作に「五百羅漢図」がある東福寺の僧の名を漢字2文字で記せ。

【設問6】文中の下線部(カ)に関して、五山派が宗教性を失って権威主義に陥っていることを批判し、京都紫野の売扇庵や京田辺市の酬恩庵などを創めたのち、文明6年(1474)に大徳寺住持となり、彼の別号を名称に含む詩偈集『狂雲集』を著した禅僧は誰か。その名を漢字4文字で記せ。

【設問7】文中の下線部(キ)に関して、この禅僧の名を漢字4文字で記せ。

【語群】

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 建長寺 | 2. 高山寺 | 3. 本願寺 | 4. 寿福寺 |
| 5. 法勝寺 | 6. 東福寺 | 7. 浄土寺 | 8. 法界寺 |
| 9. 永平寺 | 10. 青龍寺 | 11. 建仁寺 | 12. 園城寺 |
| 13. 五 刹 | 14. 十 刹 | 15. 諸 山 | 16. 雪舟等楊 |
| 17. 虎関師鍊 | 18. 義堂周信 | 19. 沢庵宗彭 | 20. 夢窓疎石 |
| 21. 南村梅軒 | 22. 桂庵玄樹 | | |